

科目コード N-151	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	看護学概論	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年前期
授業概要			
看護の基本概念を理解し、専門職としての看護の役割と機能について基本的な考え方を学ぶ。 看護尾対象である人間のさまざまな捉え方を理解し、看護とは何かを考え、追究する基盤を養う。 看護倫理の重要性を理解し、現在の看護活動の概観を学ぶ。			
到達目標			
1. 看護の本質・概念・主となる看護理論の基礎的な知識を身につけて述べることができる。 2. 看護の対象としての人間の定義や対象について説明する。 3. 事例や看護場面を通して、看護職の役割・機能について意欲的に考える姿勢を身につける。 4. 看護を支える制度について説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	看護を学ぶにあたって	講義	教室1
第2回	看護とは	講義	教室1
第3回	看護とは	講義	教室1
第4回	看護の対象の理解	講義	教室1
第5回	看護の対象の理解	講義	教室1
第6回	国民の健康状態と生活	講義	教室1
第7回	国民の健康状態と生活	講義	教室1
第8回	看護の提供者	講義	教室1
第9回	看護の提供者	講義	教室1
第10回	看護における倫理	講義	教室1
第11回	看護における倫理	講義	教室1
第12回	看護の提供のしくみ	講義	教室1
第13回	看護の提供のしくみ	講義	教室1
第14回	広がる看護の活動領域	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等：時間外学習に必要な内容と時間			
看護の学習は毎日継続して積み重ねていくことが重要です。 授業では内容を理解することに努め、自分の考えを人に伝えられるように取り組みましょう。 毎時間の事前・事後課題に主体的・積極的に取り組み、深い学びがえられるよう期待します。			
成績評価方法	学習課題、授業参加状況、筆記試験を総合して評価する。評価割合は授業で示す。		
テキスト 参考書	医学書院) 基礎看護学1 看護学概論 別巻 看護史 日本看護学校協議会) 看護の基本となるもの 現代社) ナイチンゲールの看護覚え書		
受講要件 ・備考			

科目コード N-152	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	ヘルスアセスメント	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年前期・後期
授業概要			
看護における人間相互の関係を成立発展するためのコミュニケーション技術、対象の健康状態を理解するために必要な知識と技術を身につける。ヘルスアセスメントは、対象の健康状態を身体的・心理・社会的・行動的側面から全人的に理解するために、最も基本的で重要な看護技術である。			
到達目標			
1. 対人関係における効果的なコミュニケーションについて説明する。 2. ヘルスアセスメントの意義と重要性について意欲的に考える姿勢を身につける。 3. 根拠に基づいたバイタルサイン測定方法を身につけ、得た情報の基本的なアセスメントができる。 4. ヘルスアセスメントを実施し、得られた結果から援助に活用する方法を身につける。 5. 看護学生としてふさわしい態度で対象者に配慮ができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	コミュニケーション：構成要素と成立過程	講義	教室1
第2回	コミュニケーション：関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	教室1
第3回	ヘルスアセスメント：健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義	教室1
第4回	全体の概観：フィジカルアセスメントに必要な技術	講義	教室1
第5回	バイタルサイン：体温、呼吸	講義	教室1
第6回	バイタルサイン：脈拍、血圧、意識レベル	講義	教室1
第7回	校内実習：バイタルサイン：実習	演習	基礎看護学実習室
第8回	校内実習：バイタルサイン：実習	演習	基礎看護学実習室
第9回	系統的フィジカルアセスメント：呼吸	演習	基礎看護学実習室
第10回	校内実習系統的フィジカルアセスメント：呼吸	講義	教室1
第11回	系統的フィジカルアセスメント：循環	演習	成人看護学実習室
第12回	系統的フィジカルアセスメント：腹部	講義	教室1
第13回	系統的フィジカルアセスメント：筋・骨格・神経・感覚器・心理社会	講義	教室1
第14回	校内実習：フィジカルアセスメント	演習	基礎看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
人体の構造機能を復習し、動画教材を利用しながら学習していきましょう。何度も練習して正確な技術を習得しましょう。			
成績評価方法	学習課題、授業参加状況、演習、筆記試験を総合して評価する。		
テキスト	医学書院)基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ		
参考書	医学書院)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 メディックメディア)看護がみえるvol.3 フィジカルアセスメント ビジュラン) わかる！できる！バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント		
受講要件・備考			

科目コード N-153	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	看護過程	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年前期・後期
授業概要			
問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方、看護過程の各段階についてその基本的な考え方と実際について学ぶ。			
到達目標			
1. クリティカルシンキング、リフレクションなど看護過程を展開する基盤となる考え方が説明できる。 2. 看護過程の構成要素に関する基礎的な知識が理解できる。 3. 看護過程の各段階を事例に適用できる。 4. 看護記録の記載・管理について理解できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	看護とは	講義	教室1
第2回	看護記録	講義	教室1
第3回	看護過程の基盤となる考え方	講義	教室1
第4回	看護過程の展開1	講義	教室1
第5回	看護過程の展開2	講義	教室1
第6回	看護過程の展開3	講義	教室1
第7回	事例の看護過程の展開1	講義	教室1
第8回	事例の看護過程の展開2	講義	教室1
第9回	事例の看護過程の展開3	講義	教室1
第10回	事例の看護過程の展開4	講義	教室1
第11回	事例の看護過程の展開5	講義	教室1
第12回	事例の看護過程の展開6	講義	教室1
第13回	事例の看護過程の展開7	講義	教室1
第14回	事例の看護過程の展開8	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
看護を科学的に実践するための基本的な考え方を学びます。看護過程の思考過程を身につけられるように理解し復習することが必要です。動画教材も活用して、主体的に根気よく丁寧に学習してきましょう。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	ゴードンの機能別健康パターンに基づく看護過程と看護診断 (医学書院)看護診断ハンドブック、基礎看護技術 I (メディックメディア)看護過程 解説動画		
受講要件 ・備考			

科目コード N-154	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	学習支援	時間数	15時間
担当教員	専任教員	開講時期	2年後期
授業概要			
ライフスタイルの多様化、慢性疾患の増加、入院期間の短縮化が進む中で患者教育・指導は重要な意味を持つ。セルフケアのための教育プロセスについて学び、対象の望ましい行動変容しながら働きかけを行う方法を学ぶ。			
到達目標			
1. 看護における学習支援について意欲的に考える姿勢を身につける。 2. セルフケア教育における看護師の役割を理解し、患者のセルフケア能力の向上を支援する方法を身につける 3. 教育指導が行われるおこな場所をとりあげ、その場に応じた教育・指導について説明できる。 3. 学習ニーズに即した指導内容・指導方法の選び方と具体的な指導の進め方を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	学習支援とは	講義	教室2
第2回	健康に生きることを支える学習支援	講義	教室2
第3回	健康状態の変化に伴う学習支援	講義	教室2
第4回	学習支援の実践	講義	教室2
第5回	学習支援：個人	講義	教室2
第6回	学習支援：家族	講義	教室2
第7回	学習支援：集団	講義	教室2
第8回	単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
看護の実践能力の一部である人々の健康にかかわる学習を支援する看護技術について学びます。専門領域の実践論や臨地実習に技術を活かせるようにしっかりと理解し定着できるように学習しましょう。教育学・成人看護学概論の成人の学習についての復習をしておきましょう。			
成績評価方法	学習課題、演習、筆記試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院) 基礎看護技術 I、成人看護学総論 メディックメディア)看護がみえるvol.4ー看護過程の展開		
受講要件 ・備考			

科目コード N-155	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	日常生活看護技術1	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年前期
授業概要			
人間は環境の影響を受けながら変化している。対象が快適な生活を過ごせるように、感染予防や療養環境の調整のために必要な基礎知識と技術を学ぶ。 食べることは、人間の基本的ニーズの一つである。食事・栄養摂取のアセスメントを行い、状態に応じた食事の援助について学ぶ。また、排便・排尿は、生命維持・健康維持のために重要な機能であり、自尊感情と深く関わる。排泄に関するアセスメントについて学び、状況に応じた援助を行うための基礎知識と技術を学ぶ。			
到達目標			
1. 感染予防の知識を身につけ、衛生的な手洗いができる。 2. 環境調節技術の基礎知識を理解し、病床を整えることができる。 3. 食事援助技術の基礎知識を身につけ、対象の状況に応じた食の援助ができる。 4. 排泄援助技術の基礎知識を身につけ、対象の状況に応じた排泄の援助ができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☑1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☑2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☑3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☑4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☑5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☑6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	看護技術を学ぶにあたって、看護技術の根底をなすもの、感染予防の基礎知識	講義	教室1
第2回	感染予防の基礎知識、標準予防策、感染経路別予防策	講義	教室1
第3回	校内実習:感染予防	演習	基礎看護学実習室
第4回	校内実習:感染予防	演習	基礎看護学実習室
第5回	環境調整基礎知識	講義	教室1
第6回	校内実習:環境調整	演習	基礎看護学実習室
第7回	校内実習:環境調整	演習	基礎看護学実習室
第8回	食事援助技術:基礎知識、食事摂取の介助	講義	教室1
第9回	食事援助技術:食事摂取の介助	講義	教室1
第10回	校内実習:基礎知識、食事摂取の介助	演習	基礎看護学実習室
第11回	排泄援助技術:自然排尿、自然排便の介助	講義	教室1
第12回	排便を促す援助:浣腸、摘便、おむつ	講義	教室1
第13回	校内実習:排泄援助	演習	基礎看護学実習室
第14回	校内実習:排泄援助	演習	基礎看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
人体の構造と機能の既習学習内容を復習して授業に臨んでください。 摂食・嚥下障害、認定看護師の講義を受講し、対象の健康保持・増進・健康回復のための基礎知識・技術・態度を学びます。			
成績評価方法	学習課題、演習、授業参加状況、筆記試験を総合して評価する		
テキスト	医学書院) 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ		
参考書	医学書院)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 ビジュラン) 実践! 看護技術シリーズ		
受講要件・備考			

科目コード N-156	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	日常生活看護技術2	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年前期
授業概要			
看護の対象の健康維持・増進・健康回復のため、日常生活における活動と休息、清潔・衣生活の援助の意義・方法を理解し、対象に援助するための基礎知識・技術・態度を学ぶ。			
到達目標			
1. 活動と休息の意義と援助の目的を理解し、移動の援助ができる。 2. 清潔の援助のための皮膚粘膜の仕組みとアセスメントについて説明できる。 3. 清潔ケアの意義と具体的方法を説明できる。 4. 衣生活の意義について理解したうえで寝衣交換ができる。 5. 看護の対象の健康維持・増進、回復促進に向け、清潔・衣生活の援助を適切な方法で実施できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	活動と休息の援助技術: 基本的活動の援助	講義	教室1
第2回	睡眠・休息の援助	講義	教室1
第3回	校内実習: 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	演習	基礎看護学実習室
第4回	校内実習: 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	演習	基礎看護学実習室
第5回	清潔・衣生活援助技術: 基礎知識	講義	教室1
第6回	清潔の援助の実際: 入浴、全身清拭	講義	教室1
第7回	清潔援助の実際: 整容、口腔ケア	講義	教室1
第8回	清潔援助の実際: 洗髪、手浴、足浴、陰部洗浄	講義	教室1
第9回	病床での衣生活の援助: 基礎知識、援助の実際	講義	教室1
第10回	校内実習: 寝衣交換	演習	基礎看護学実習室
第11回	校内実習: 全身清拭と寝衣交換	演習	基礎看護学実習室
第12回	校内実習: 洗髪	演習	基礎看護学実習室
第13回	校内実習: 部分浴	演習	基礎看護学実習室
第14回	校内実習: 陰部洗浄	演習	基礎看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
人体の構造と機能の既習学習内容を復習して授業に臨んでください。 授業に関連する動画を授業前後で視聴し、知識を身につけましょう。 基本技術は積極的に繰り返し練習し、状況に適した方法でケアが実施できるよう主体的に取り組みましょう。			
成績評価方法	学習課題、演習、授業参加状況、筆記試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院) 基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ		
受講要件 ・備考			

科目コード N-157	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	診療補助看護技術1	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年後期
授業概要			
看護師は、対象者に用いられる薬物の作用・副作用を理解し、安全で効果的に援助するための知識と技術が必要である。対象者に、安全でかつ適切に与薬を行うための基本事項を学び、実践論で薬物療法の実際を学ぶ。また、輸血管理の基本事項についても学ぶ。			
到達目標			
1. 薬物の作用機序や体内動態など薬物療法の基本が説明できる。 2. 薬物療法における看護師の役割が説明できる。 3. 薬物療法の目的と意義を理解し、安全で適切な与薬を行うための留意点、与薬の方法とその留意点を修得することができる。 4. 輸血の基本的事項について学ぶ。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☑1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☑2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☑3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☑4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☑5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☑6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	与薬に関する基礎知識 薬物療法の理解	講義	教室1
第2回	薬物療法における看護師の役割と患者の援助	講義	教室1
第3回	経口与薬法	講義	教室1
第4回	外用薬の皮膚・粘膜適用 口腔内与薬法・直腸内与薬法	講義	教室1
第5回	外用薬の皮膚・粘膜適用 皮膚用製剤・塗布・貼用・点眼・吸入法	講義	教室1
第6回	注射法の基礎知識	講義	教室1
第7回	注射法 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射	講義	教室1
第8回	注射法 静脈内注射	講義	教室1
第9回	輸血管理	講義	教室1
第10回	校内実習：静脈内注射	演習	基礎看護学実習室
第11回	校内実習：静脈内注射	演習	基礎看護学実習室
第12回	校内実習：静脈内注射	演習	基礎看護学実習室
第13回	校内実習：筋肉内注射	演習	基礎看護学実習室
第14回	校内実習：筋肉内注射	演習	基礎看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
専門基礎科目、薬理学の復習をして授業に臨んでください。 授業に出てくる薬剤は、作用・副作用・禁忌など基本事項を調べ学習してください。 動画教材等を効果的に使用し、安全で確実な技術を修得してください。			
成績評価方法	授業参加状況、学習課題、態度、試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	eテキスト)基礎看護技術Ⅰ・基礎看護技術Ⅱ・薬理学・臨床薬理学 eナーストレーナー)[基礎・臨床看護技術]与薬の技術、注射・採血ができる 1注射、3合併 症・事故の予防と対処 ビジュラン)実践！看護技術シリーズ 診療に関わる技術編 Vol.3与薬、Vol.4注射、Vol.5輸液、Vol.7輸血		
受講要件・備考			

科目コード N-158	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	診療補助看護技術2	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団看護師	開講時期	2年前期
授業概要			
検査は対象の病態の把握、疾病の活動性、程度の判定、治療の効果、副作用の把握、予測のために必要な情報である。目的通りの正しいデータを得るために、安全でスムーズな検査が行われるよう看護師の役割と機能を学習する。また、得られたデータをアセスメントし、臨床判断につなげるための基盤とする。			
到達目標			
1. 臨床検査の流れと看護師の役割が説明できる。 2. 検体検査の目的と採取時の留意点、生体検査の援助が説明できる。 3. 検査の目的・留意点を理解した上で検体の採取ができる。 4. 画像診断における看護師の役割が説明できる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☑1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☑2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☑3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☑4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☑5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☑6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	臨床検査の流れと看護師の役割	講義	教室2
第2回	検体の採取方法、保存、移送：尿、血液、喀痰、髄液、胸水、腹水	講義	教室2
第3回	検査に伴う危険とその防止	講義	教室2
第4回	看護師が実施・指導する検査：生命維持・緊急時のアセスメント： ：標準12誘導心電図、モニター心電図、パルスオキシメータ	講義	教室2
第5回	検査を受ける患者の看護、放射線防護	講義	教室2
第6回	画像検査を受ける患者の看護	講義	教室2
第7回	内視鏡検査を受ける患者の看護	講義	教室3
第8回	IVR、血管造影検査を受ける患者の看護	講義	教室4
第9回	校内実習実習：静脈採血	演習	基礎看護学実習室
第10回	校内実習：静脈採血	演習	基礎看護学実習室
第11回	校内実習：無菌尿採取	演習	基礎看護学実習室
第12回	校内実習：無菌尿採取	演習	基礎看護学実習室
第13回	パフォーマンス評価	技術試験	基礎看護学実習室
第14回	パフォーマンス評価	技術試験	基礎看護学実習室
第15回	まとめと単位認定試験	筆記試験	教室2
準備学習等			
検査に必要な、人体の構造と機能について復習し受講してください。 関連する動画教材を視聴し復習して受講してください。			
成績評価方法	学習課題、授業参加状況、パフォーマンス、筆記試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院）基礎看護技術1、基礎看護学2 臨床検査、臨床放射線医学 根拠が事故防止からみた基礎・臨床看護技術		
受講要件 ・備考			

科目コード N-159	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	診療補助看護技術3	時間数	30時間
担当教員	専任教員、南和広域医療企業団認定看護師	開講時期	2年前期・後期
授業概要			
呼吸の状態を改善し、整える技術は対象の安楽、生活の質、生命の維持に必要な技術である。呼吸状態のアセスメントについて学び、呼吸・循環を整える技術を身につける。また、皮膚の構造や、創傷の種類治癒過程など創傷の観察・処置方法、褥瘡の発生の仕組み、予防方法について学ぶ。			
到達目標			
1. 呼吸の機能及び呼吸状態のアセスメントについて理解する。 2. 呼吸を安楽にする、体位ドレナージ、排痰法・酸素療法について理解する。 3. 体温・循環調節手段の冷罨法・温罨法の方法を理解する。 4. 皮膚の構造と創傷の種類と回復過程、創傷処置の方法について理解する。 5. 褥瘡発生のしくみ、評価と予防方法を学び実践できる。 6. 救命救急に関する基礎知識と基本技術を身につける。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	呼吸・循環を整える技術 酸素吸入療法、排痰ケア、吸入	講義	教室2
第2回	呼吸・循環を整える技術 持続吸引・人工呼吸法、体温管理の技術	講義	教室2
第3回	校内実習：呼吸・循環を整える技術 体位ドレナージ・一時的吸引	演習	成人看護学実習室
第4回	校内実習：呼吸・循環を整える技術 体位ドレナージ・一時的吸引	演習	成人看護学実習室
第5回	創傷管理技術 基礎知識 創傷処置	講義	教室2
第6回	校内実習：創傷管理技術 創傷の処置、包帯法	演習	成人看護学実習室
第7回	創傷管理技術 褥瘡の予防：基礎知識	講義	教室2
第8回	校内実習：創傷管理技術 褥瘡の予防：援助の実際	演習	成人看護学実習室
第9回	救急看護の概念・観察とアセスメント	講義	教室2
第10回	救急時の対象、家族への精神的ケア・死後のケア	講義	教室2
第11回	救命救急処置技術 止血法、院内急変時の対応	講義	教室2
第12回	救命救急処置技術 止血法、院内急変時の対応	講義	教室2
第13回	校内実習：救命救急処置技術 心肺蘇生法	演習	教室2
第14回	校内実習：救命救急処置技術 心肺蘇生法	演習	教室2
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室2
準備学習等			
生命を守る看護師として重要な基礎看護技術です。 動画教材を有効に活用しながら興味関心を持ち、技術の修得を目指しましょう。 人体の構造と機能を復習して臨みましょう。			
成績評価方法	学習課題、授業参加状況、筆記試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ 救命看護、根拠と自己防止からみた 基礎臨床看護技術		
受講要件 ・備考			

科目コード N-160	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
授業科目名	看護技術の統合	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年後期
授業概要			
既習の学習内容を統合し、事例に対して、安全・安楽に科学的根拠に基づいた看護技術を適用する方法を学ぶシミュレーションをとおして、コミュニケーション及びフィジカルアセスメントを強化するとともに倫理的判断について考え、次年度に向けた自己の課題を明確にし取り組む。			
到達目標			
1. 既習の看護技術を統合し、事例に対する援助計画を立案しケアの実践と評価を行える。 2. 対象の状況に応じた看護技術の適用について意欲的に考えることができる。 3. シミュレーションをとおして、コミュニケーション技術、基本的なフィジカルアセスメントができる。 4. 倫理的配慮とプライバシーの保護を念頭におきケアができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	授業の概要、対象の理解	講義	教室1
第2回	排泄の援助 グリセリン浣腸	講義	教室1
第3回	グリセリン浣腸	演習	教室1
第4回	グリセリン浣腸	演習	基礎看護学実習
第5回	対象の理解	講義	基礎看護学実習
第6回	アセスメントに基づく、対象に合わせた観察	演習	基礎看護学実習
第7回	アセスメントに基づく、対象に合わせた環境整備	演習	基礎看護学実習
第8回	対象に合わせた日常生活の援助を考える	講義	基礎看護学実習
第9回	アセスメントに基づく、状況に応じた観察と日常生活の援助(清潔の援助)	演習	基礎看護学実習
第10回	アセスメントに基づく、状況に応じた観察と日常生活の援助(清潔の援助)	演習	基礎看護学実習
第11回	対象に合わせた日常生活の援助を考える	講義	基礎看護学実習
第12回	パフォーマンス評価	技術試験	基礎看護学実習
第13回	パフォーマンス評価	技術試験	基礎看護学実習
第14回	まとめとふり返し	講義	基礎看護学実習
第15回	まとめと単位認定試験	筆記試験	教室1
準備学習等			
既習教科の復習をして受講してください。			
成績評価方法	学習課題、授業参加状況、パフォーマンス、筆記試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ 医学書院)根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 ビジュラン)実践！看護技術シリーズ、フィジカルアセスメント		
受講要件 ・備考			

教育内容区分	専門分野 基礎看護学	単位数	必修 1単位
科目コード N-161	臨床看護総論	時間数	30時間
担当教員	専任教員	開講時期	1年後期
授業概要			
臨床看護における看護、健康障害の経過と治療の特徴、生命維持と日常生活に影響を及ぼす障害と看護の基本について学習する。			
到達目標			
1. 臨床看護における対象の特性について理解できる。 2. 健康障害の経過と身体に及ぼす影響、その治療の特徴と援助に関する基礎的知識について理解できる。 3. 生命維持と日常生活に影響を及ぼす障害と看護援助について述べることができる。 4. 看護理論と事例の症状を関連させながら解説および看護援助ができる。			
ディプロマポリシーとの関連性			
☒ 1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合されたかけがえのない一人の生活者として理解している ☒ 2. 生命の尊厳と人権を尊重し、信頼関係を築く力を身につけている ☒ 3. 科学的根拠に基づき、健康課題に応じた基本的な看護を計画・実践・評価している ☒ 4. 地域社会の健康課題を理解し、多職種と連携・協働する姿勢を身につけている ☒ 5. 看護専門職としての責務を自覚し、倫理的判断に基づいて行動している ☒ 6. 主体的かつ継続的に学び、専門性を高めながら社会に貢献しようとする姿勢を身につけている			
授業計画			
回	学習内容	授業方法	場所
第1回	健康上のニーズを持つ対象と家族への看護	講義	教室1
第2回	健康状態の経過に基づく看護:健康の維持増進、急性期	講義	教室1
第3回	健康状態の経過に基づく看護:慢性期、リハビリテーション期	講義	教室1
第4回	健康状態の経過に基づく看護:終末期	講義	教室1
第5回	主要な症状を示す対象者への看護:呼吸	講義	教室1
第6回	主要な症状を示す対象者への看護:循環	講義	教室1
第7回	主要な症状を示す対象者への看護:栄養	講義	教室1
第8回	主要な症状を示す対象者への看護:排泄	講義	教室1
第9回	看護過程の展開1	講義	教室1
第10回	看護過程の展開2	講義	教室1
第11回	看護過程の展開3	講義	教室1
第12回	看護過程の展開4	講義	教室1
第13回	看護過程の展開5	講義	教室1
第14回	治療・処置を受ける対象者への看護:輸液療法	講義	教室1
第15回	まとめと単位認定試験	試験	教室1
準備学習等			
人体の構造と機能、栄養学、薬理学、病理学、臨床検査、疾病論1、2の既習学習を統合し看護を考えましょう			
成績評価方法	学習課題、授業参加状況、筆記試験を総合して評価する		
テキスト 参考書	医学書院)臨床看護総論、基礎看護技術Ⅰ、基礎看護技術Ⅱ、専門分野(成人)シリーズ メディックメディア)看護がみえる③フィジカルアセスメント、看護がみえる④看護過程の展開 eナーストレーナー)症状別看護過程、ビジュアル)看護のための病態生理とアセスメント		
受講要件 ・備考			